

みずほマーケット・トピック(2024年3月21日)

「債券市場への優しさ」が助長した円安~日銀決定を受けて~

日銀金融政策決定会合は事前報道通りにマイナス金利解除を筆頭とする引き締めを決定。会合前の本欄ではリークが続いた弊害として「噂で買って、事実で売り」という定石ではなく「噂で売って、事実でも売り」というコースに入った可能性があると警鐘と鳴らしていた。懸念は的中したと言わざるを得ず、ドル/円相場は一時年初来高値を更新した。故意にしろ、過失にしろ、事前に決定内容をリークしてしまえば、事前期待を超えることが義務になる。日本の実体経済情勢を踏まえれば、その義務はあまりにも重いものだった。今回の決定は総じて債券市場に優しい決定であり、その優しさが仇となって円相場における「事実で売り」を助長したのも間違いない。債券市場のアタックに対して守りを厚くした代償として為替市場のそれに対しては守りが手薄になったとも言える。今後の注目点は政府のデフレ脱却宣言の行方に。デフレ脱却宣言には実賃賃金のプラス転化が必要条件と思われるが、それは最速で夏になるだろう。しかし、あくまで一過性の動きに終わる可能性があり、政治的なハードルはかなり高いと考えたい。

~やはり「噂で売って、事実でも売り」だった~

注目された 18~19 日の日銀金融政策決定会合は①イールドカーブ・コントロール (YCC) の廃止、②無担保コールレートの誘導目標を▲0.1%から+0~0.1%程度へ引き上げ、③ETF・JREIT の購入停止という引き締め方向の決定を下した。日銀にとっては実に 17 年ぶりの利上げとなる。マイナス金利解除と共に注目されていた長期国債買い入れ規模の取り扱いに関しては当面は現状と同程度(月 6 兆円程度)で維持されることが決定されており、後述するように、この部分が今会合のタカ派色をかなり相殺したように感じられた。為替市場の反応もこの部分の影響が強いように思う。

細かい話をすれば、黒田日銀の「迷走の象徴」とも言える存在だった 3 層構造の付利金利が従来の 1 層構造に回帰したこと、今年 4~6 月の国債買い入れオペ(公開市場操作)の買い入れ予定額の上限が引き下げられたこと、無担保コールレートの変更が即日適用となったことなど注目点は多いが、全体として「金利を上げたいけど上げたくない」という日銀の複雑な胸中が透けて見え隠れし、そこを為替市場に突かれた印象は強い。

注目されたドル/円相場は利上げ決定後、年初来高値まで急騰している。筆者は会合前の本欄において、リークが続いた弊害として「噂で買って、事実で売り」という定石ではなく「噂で売って、事実でも売り(Sell the rumor, sell the fact)」というコースに入った可能性があると警鐘と鳴らした。懸念は完全に的中したと言わざるを得ない。故意にしろ、過失にしろ、事前に決定内容をリークしてしまえば、事前期待を超えることが義務になる。個人消費や生産に脆弱性を抱える日本の実体経済上を踏まえれば、その義務はあまりにも重いものだった。

~債券市場への優しさが仇に~

2024年3月21日 1

多くの市場参加者が感じている通り、<u>今回の決定は債券市場に優しい決定であった</u>。その優しさが仇となって円相場における「事実で売り」を助長したのは間違いない。反対に、利上げ決定後も長期金利はしっかり低下している。<u>債券市場のアタックに対して守りを厚くした代償として為替市場のそれに対しては守りが手薄になった</u>。今の日本経済は金利上昇か円安か、いずれかを我慢しなければいけないという二者択一を迫られているわけだが、<u>現状は金利上昇を避ける代わりに円安を</u>引き受けている状況にあると理解すべきである。

債券市場への優しさは長期国債の調節方針から確認できる。「これまでと概ね同程度の金額」で長期国債の買入れが継続され、長期金利急騰の局面では毎月の買入れ予定額にかかわらず、機動的に買入れ額の増額や指値オペ、共通担保資金供給オペなどが実施されることになっている。会合前の本欄でも議論した点だが、日銀が国債発行残高の半数を握る以上、形式的に YCC を廃止しても実質的に YCC は残存せざるを得ない。もちろん、6 兆円程度の買い入れ額継続は来たるべきバランスシート縮小(QT)が始まるまでの激変緩和措置という位置づけであろうし、それは買い入れ予定額の上限が引き下げられている部分からも読み取れる。しかし、肝心の調節方針で「機動的に買入れ額の増額や指値オペ、共通担保資金供給オペなどが実施される」と約束されている以上、今回の決定はマイナス金利政策解除を除けば殆ど現状追認とも言える。周知の通り、合わせて廃止されたリスク性資産(ETF・JREIT)の買い入れは元々行われていない。

結局、こうした債券市場への手厚い優しさの代償として為替市場で期待された円安抑止の効果 は必然的に削がれた。あくまでマイナス金利解除を本丸と見据え、その軟着陸を優先したからこそ 決定直前までリークが重ねられたのかもしれないが、変動為替相場を採用している以上、<u>金利上昇</u> の抑止と円下落の放置はセットである。日銀も当然理解している点だろうが、金利上昇を甘受する だけの政治・経済的な体力は日本には無く、今回のような決定になるのは不可抗力でもある。

~テーマは金融政策からデフレ脱却宣言へ~

なお、今回は対外公表文において「現時点の経済・物価見通しを前提にすれば、当面、緩和的な金融環境が継続すると考えている」との一文が明記されている。これを額面通り受け止めれば、連続利上げは無いという話であり、今後はこのフォワードガイダンスを元にして金融市場は資産価格形成に努めていくことになる(厳密には中立金利が特定できない以上、「緩和的な金融環境」と利上げの関係は可変的だが、ここでは脇に置く)。しかし、このまま日銀の金融政策運営が凪の常態に入るとしても、1点気がかりな要素が残る。それは政府のデフレ脱却宣言の行方だ。

今回、マイナス金利解除決定が可能になった背景として春闘の第 1 回集計が 32 年ぶりの高水準となったことで政治的にも容認しやすくなったという事情は間違いなくあった。周知の通り、岸田政権は企業への賃上げ要請やこれを促すための税制に余念がない。だからこそ、マイナス金利解除に至った雇用・賃金環境の改善を政府・与党の政策効果の表れと喧伝したいはずであり、その象徴的な一手としてデフレ脱却宣言は有力候補ではあろう。

だが、筆者はデフレ脱却宣言はあるとしても年央以降で、基本的には難しいという立場である。 理由は様々挙げられるが、マイナス金利解除とデフレ脱却宣言では意味するところが違い過ぎる。 今回のマイナス金利解除について、それほど大きな世論の反発がなかったのは恐らく「円安抑止の ためには致し方ない」という思惑もあったと思われるが、政府がデフレ脱却宣言を出すということは

2024年3月21日 2

景況感の明確な好転にお墨付きを与えるような印象を与えるだろう。

そもそもデフレが何を意味するかは経済主体によって異なる。政府や日銀にとっては消費者物価指数(CPI)の低迷だろう。企業や外国人投資家にとっては株価の低迷かもしれない。では、家計にとっては何だろうか。正しい答えは 1 つではないだろうが、やはり実質賃金の低迷だと筆者は考えている。これら経済主体によって感じ方が異なる「何となく景気が悪い状況」をデフレという言葉に押し込めて表現してきたのが「失われた 30 年」であるように思うし、それを一発逆転の妙手で打開できると喧伝したのがアベノミクスに化体したリフレ思想だ。

そのような仮定に基づいた場合、<u>政府がデフレ脱却宣言を打ち出しても世論の反発に遭わない</u> <u>タイミングは実質賃金の低迷が打破されているタイミングである</u>。この点、年内は CPI の低下傾向と 名目賃金の上昇傾向が重なるため、実質賃金は最短で夏頃にはプラス転化するという見通しがあ る。解散総選挙がいつ行われてもおかしくないと言われる 2024 年だけに、実質賃金のプラス転化・ デフレ脱却宣言・解散総選挙はセットで考えると良い事象だろう。

もっとも、以上のような政府・日銀の動き方を踏まえたところで、筆者の円相場見通しに影響はない。事前の情報発信に不味さがあったとはいえ、日銀がマイナス金利解除に至り、FOMCで3回利下げが完全に織り込まれてもドル/円相場は150円台にある(筆者はマイナス金利解除は押し目を作ってくれると思っていたが、事前のリーク合戦で円高材料として消耗され尽くしてしまったのは誤算だった)。結局、円相場の現状と展望を議論する上では「見るべきものは金利差ではなく需給」という過去2年以上にわたって本欄で強調してきた論点の妥当性が日々、浮き彫りになっていると言わざるを得ない。

金融市場部

チーフマーケット・エコノミスト 唐鎌大輔(TEL:03-3242-7065) daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようにお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

2024年3月21日 3

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です http://www.mizuhobank.co.ip/forex/econ.html (Archives) http://www.mizuhobank.co.ip/forex/econ.backnumber.html

| | http://www.mizuhobank | Co.ip/forex/econ.html (Archives) http://www.mizuhobank.co.ip/forex/econ_backnumber.html |
|--|-----------------------|---|
| 2004年3月15日 | 発行年月日 | 過去6か月のタイトル |
| 2004年3月14日 | | 1 11 111 1111 1111 |
| 2004年3月19日 | | |
| 2004年3月12日 第20回間限度を応収を記つまた。ででは応見書きで 第2004年3月12日 第20回間では、日本では、日本では、日本では、日本では、日本では、日本では、日本では、日本 | | |
| 2004年3月1日 第大の門の別スクロに前の選挙社に打 2004年3月1日 第五次の形成を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を | | |
| | | |
| 2004年3月14日 | | |
| 2004年3月1日 3年7月 3日 1日 | | |
| 2004年3月1日 連載係「マイナスを制御条件目標の関係性・デルド目標集の変やは早日目の考え方~ | | |
| 2004年9月91日 コーロ機の初北と型で会社と関係を持ちたった 2004年9月91日 日東の東海県工芸の関係を対している。 2004年9月91日 日東の東海県工芸の大学・一般学校の対から、1004年9月91日 日東の東海県工芸の大学・一般学校の対から、1004年9月91日 日東の東海県大学・1004年9月91日 日東の東海の東京とは、1004年9月91日 日東の東海の東京とは、1004年9月91日 日東の東海の東京とは、1004年9月91日 日東の東海の東京とは、1004年9月91日 日東の東海の東京とは、1004年9月91日 日東の東海の東京とは、1004年9月91日 日東の東海の東京とは、1004年9月91日 日東の東京とは、1004年9月91日 日東の東京をは、1004年9月91日 日東の東京をは、1004年9日91日 日東の東京をは、1004年9日91日 日東の東京をは、1004年9日91日 日東の東京をは、1004年9日91日 日東の東京をは、1004年9日91日 日東の東京が東京の東京の東京の東京の東京の東京の東京の東京の東京の東京の東京の東京の東京の東 | | |
| 2004年2月21日 日本学の特定上版の版色・インフルの場合・ 2004年2月21日 月景度的変を受けて一名4年10月の大学を変わかり・・ 2004年2月1日 月景度的変を受けて一名4年10月の大学を変わかり・・ 2004年2月1日 本部に 人名格人 民間変の対象を受けて一条機・ 2004年2月1日 本部に 人名格人 民間変の対象を受けて一般を対していません。 2004年2月1日 本部に 人名格人 民間変の対象を受けて一般を対していません。 2004年2月1日 本部に 小子が生からないできません。 2004年2月1日 本部に 小子が生からないできません。 2004年2月1日 本部に 小子が生からないできません。 2004年2月1日 のまり、 日本学生のカード・フルー・フルー・フルー・フルー・フルー・フルー・フルー・フルー・フルー・フルー | | |
| 2004年7月7日 日本版 日本 | | |
| 2004年3月18日 月景泉の変を表明で、240年1月から思いかっ? | | |
| 2004年2月19日 日本の企業の本質・A世界のどからないから〜 2004年2月19日 本が色、日夏菜のグリガモゲアー 製造しています。 | | 1月貿易収支を受けて~24年4円売り優勢変わらず~ |
| 2004年2月10日 | | |
| 2002年1月15日 本野商人資産のが対策を2つ一動の2004年月分 本別の・1月8日ので設けて、金別を担います。 第月8日ので設けて、金別を担じて、 | | |
| 2024年2月14日 野田代の赤子上の商品と開発で 2024年2月14日 空間 | | 本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2024年1月分) |
| 2004年月18日 担意版 国本版 国本版 国本版 田田 日本版 | | 本邦10~12月期GDPを受けて~総崩れ~ |
| 2004年2月2日 | 2024年2月14日 | 「新時代の赤字」と原油と同質性 |
| 2004年月2日 | 2024年2月13日 | 投信経由の対外証券投資~滲む資産運用立国の未来~ |
| 2024年月71日 PDPやPRETERと了解解すべきかっペンと記憶というままへ 2024年月71日 2024年171日 2024年171日 2024年171日 2024年月71日 2024年171日 2024年 | | |
| 2004年月21日 | | |
| 2024年1月19日 日本内の民任を大変である。大学の2024年1月20日 日本内の民任を、地東をで始また。2024年1月21日 日本の民任と、地東をで始また。2024年1月21日 日本の民任と、地東で、日本の上に、日本の上に、1月20日年 1月22日日 日本の民任と、1月22日日 日本の民任と、1月22日日 日本の民任と、1月22日日 日本の日本の上に、1月22日日 日本の日本の上に、1月22日日 日本の日本の上に、1月22日日 1月21日日 日本の日本の上に、1月22日日 1月22日日 1月22 | | |
| 2024年1月21日 日本丹の接着中・極身変で始まった2024年1月21日 2024年1月21日 2024年1月21日 2024年1月21日 2024年1月21日 1020年1月21日 2024年1月21日 2024年1月21日 2024年1月21日 2024年1月21日 2024年1月21日 2024年1月21日 2024年1月21日 1020年1月21日 2024年1月21日 2024年2024年2024年2024年2024年2024年2024年2024 | | |
| 2024年 月25日 国東版(区の政策軍事を登入で、「夏がキーブレーズ〜) 2024年 月26日 日最金教政策を含・働り込むでは日安の係金・ (2024年 月26日 日報金教政策を含・働り込むでは同安の係金・ (2024年 月26日 日本・ (2024年 月27日 日本・ (2024年 | | |
| 2024年月21日 日本会議を設定支充を含め切られていたのでは、 | | |
| 2024年月月23日 電数1の円光以下保管のレンドリの電い | | |
| 2004年1月19日 | | |
| 2024年1月19日 大杉俊人 反対象の 対外資金 フロー動向 (2023年1月月分) | | |
| 2024年1月18日 大橋色人政党家の対外党金クロー動向(2024年1月7日 行音声が追加でありため、下げの大きないのでは、日本 | | |
| 「野市の・遠瀬」で造む中の神学を一現体製の一部 | | |
| 2024年1月15日 「新村代の赤字」の定点観測と今後の高齢ペイージ 2024年1月15日 マイルド・キャピクルフライ(大観)~素能への評価~ 2024年1月15日 | 2027年1月10日 | |
| 2024年1月16日 マイルド・キャピタルファイト後編)〜需替への野無〜 2024年1月17日 温末版 2024年1月17日 温末版 2024年1月17日 第二次 日本ではアントでは、日本では、日本では、日本では、日本では、日本では、日本では、日本では、日本 | 2024年1日17日 | |
| 2024年1月15日 マルド・キャビタルフライ・新編〜常春かの丹売〜 2024年1月10日 3末版 (東京 大学 | | |
| 2024年1月19日 3. 本版 | | |
| 2024年1月1日 コーロ圏インフェデの近辺で、再洋場の飲み方~ 2024年1月9日 | | |
| 2024年1月10日 無実と解析で収支の開催について~2011年からの参加 2024年1月4日 大大航電業を含まるアメーシンサイ本管理 12024年1月4日 2023年1月21日 東末版 保養学 手地理源の影響について ~ 構造業 化を修て 音速の通貨 II でから、 | | ユーロ圏インフレ率の近況~再浮揚の読み方~ |
| 2024年1月9日 大大核協議者の表え方、メインシアリオを覆すか〜 2024年1月4日 2024年1月22日 選末版「経験学出地度の影響」といて不構造変化を終て普通の通貨 1にマントリース 2024年1月21日 2024年1月21日 2024年1月21日 2024年1月19日 2224年1月19日 2224年1月20日 | | |
| 2023年11月2日 224年、持つべきイメージは長期円安局面の小体上) 2023年12月19日 国産船政党法定会会・解除時形上刊報令の影響〜 2023年12月19日 2024年12月19日 2024年12月19日 2024年12月19日 2024年12月19日 2024年12月19日 2024年12月19日 2024年12月19日 2024年12月19日 表邦版(CSB敦党理会会教えで一架教育力・加速では、日本の影響〜 2023年12月19日 表邦版(CSB敦党理会会教えで一架教育力・加速では、日本の影響〜 2023年12月19日 2024年12月19日 24年以下円度過入料理・行政性・航空性・経験でありますを、2023年12月19日 24年以下円度過入料理・行政性・保護・大学・レンジグの真虚へ 2023年12月19日 24年以下円度過入料理・行政性・大学・レンジグの真虚へ 2023年12月19日 24年以下円度過入料理・行政性・公司を開発を表で、2023年12月1日 24年以下日本の影響は、 | | |
| 2023年12月2日 日東登康政政決党会会、保険的利比円間外の影響 | | |
| 2023年12月15日 担身を敵政策決定会合〜解除時間と同様への影響へ 2023年12月15日 過末態(CEB政策理事金を終えてベー利上げー利下げの考え方〜) 2023年12月15日 過末態(CEB政策理事金を終えてベー利上げー利下げの考え方〜) 2023年12月13日 過末態(CEB政策理事金を終えてベー利上げー利下げの考え方〜) 2023年12月13日 24年上小円見通い料理・2024年も指標性接合〜 2023年12月13日 24年上小円見通い料理・234年も指標性接合〜 2023年12月13日 24年上小円見通い料理・234年の表現を一一 2023年12月13日 24年上小円見通い料理・234年の表現を一一 2023年12月18日 24年上小円見通い料理・234年の表現を一一 2023年12月18日 24年上小円見通い料理・234年の表現を一一 2023年12月18日 24年上小円見通い料理・234年の表現を一一 2023年12月18日 24年上小円見通い料理・234年の表現を一一 2023年12月18日 24年上小田子園の読み方へ市広料配送者へ 2023年12月18日 24年上のカーナーハル号園の読み方へ市広料配送者へ 2023年12月19日 24年上のカーナーハル号園の読み方へ市広料配送者へ 2023年12月19日 24年上のカーナーハル号園の読み方へ市に発展を開催へ 2023年12月19日 24年日のカーナーハル号園の読み方で加入の場では、234年1月21日 24年日のカーナール号間の観察の影外に置望 2023年11月21日 24年日のカーナール号間の振りの表したが、234年日のカーナール号間の関係の影響との表現を表の表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表 | | 24年、持つべきイメージは「長期円安局面の小休止」 |
| 2023年12月18日 2023年12月18日 2023年12月15日 選末版(EOB政策事業を終えて・利上1一利で打りの考え方〜) 2023年12月14日 大都県人投資家の対外資金フロー動向(2023年11月分) 「FOMOを発えて・突然を力かりか割し、日駅への影響や〜 2023年12月13日 最近の需給環境について・24年も施費性は残る〜 2023年12月11日 2月2日 現日日報会の付行へ変わり動制。2020年12月11日 2月2日 現日日報会の付行へ変わり動制。2020年12月11日 2月2日 1月日日報会の付行へ変わり動制。2020年12月11日 2月2日 1月日日 2023年12月1日 2月2日 2月2日 1月日日 2023年12月1日 2月2日 2月2日 2月2日 2月2日 2月2日 2月2日 2月2日 | 2023年12月22日 | 週末版(本邦の家計金融資産動向について〜外貨性資産比率は「根雪」のイメージで〜) |
| 2023年12月15日 選末版 (ECB版業理事金を終えて、利上げ・利下げ」の考え方~) | 2023年12月20日 | 日銀金融政策決定会合~解除時期と円相場への影響~ |
| 2023年12月18日 | 2023年12月18日 | |
| COMOC 検えて、突然変わった。節目、日銀への影響や 2023年12月12日 2月日銀会会の行方・次波的観点、2000年との比較へ 2023年12月12日 2月日銀会会の行方・次波的観点、2000年との比較へ 2023年12月18日 24年に小門見追小財報・ご主敬等の変化」を確認する年へ 2023年12月18日 24年に小門見追小財報・ご主敬等の変化」を確認する年へ 2023年12月18日 2023年12月18日 2月日本 2023年12月19日 2023年12月19日 2023年12月19日 2223年12月19日 2223年12月2日 2223年12月2日 2223年12月2日 2223年12月2日 2223年12月2日 2223年12月2日 2223年12月2日 2223年12月21日 22234年12月21日 22234年12月21日 22234年12月21日 22234年12月21日 22234年12月21日 22234年12月21日 22234年12月21日 22234年12月2 | | |
| 2023年12月13日 投資の需給環境について〜24年も勝到性は残る〜 2023年12月11日 24年ドル/円見通と外観〜1生戦場の変化と確認する年〜 2023年12月1日 24年ドル/円見通し外観〜1生戦場の変化と確認する年〜 2023年12月1日 24年ドル/円見通し外観〜1生戦場の変化と確認する年〜 2023年12月1日 24年、川南シナリオの経度へに対している。 2023年12月1日 24年、川南シナリオの経度へに対している。 2023年12月1日 24年、川南シナリオの経度へ190円割れはあれど〜 2023年12月1日 24年、川南シナリオの経度へ190円割れはあれど〜 2023年11月28日 ユーロ園経済とCD全機放策の現状と展望 2023年11月28日 ユーロ園経済とCD全機放策の現状と展望 2023年11月28日 24年、関帯シナリオの経度へ190円割れはあれど〜 2023年11月28日 24年、関帯シナリオの経度へ190円割れはあれど〜 2023年11月1日 24年 24年、関帯シサリオの経度へ190円表の表しました。 2023年11月1日 24年 24年、保険するの内、しないのか〜 2023年11月1日 24年 24年、発射の月気が開発で入室がフェンスが1911月 24年 24年、発射の月気が開金プロー動向(2023年10月分) 1年が以後度的のアジェンタとど野権のすべきか 2023年11月1日 24年 24年、実計の月売りが変かって、そのカータンの234年 1月19日 24年は「実計の円売り」が正年になかって、変かり、2023年 1月19日 24年は「実計の円売り」が正年になが、今別変をの現まして、2023年 1月19日 2023年 1月19日 2023年 1月19日 2023年 1月19日 2023年 1月19日 2023年 1月2日 2023年 1月2日 2023年 1月2日 2023年 1月2日 2023年 1月2日 2023年 1月2日 2023年 1月21日 24年は「実計の円売り、人間を開発して、2023年 1月21日 24年は「実計の円売り、人間を開発して、2023年 1月21日 24年は「実計の円売り、人間を開発して、2023年 1月21日 24年は「実計の円売り、人間を開発して、2023年 1月21日 24年は「実計の円売り、人間を開発して、2023年 1月21日 24年は「実計の円売り、人間を開発して、2023年 1月21日 24年は「定計の景を修みの付け着を配けへ多り下の場を回り、2023年 1月21日 24年は「定計の景を修みの付け着を配けへ多り下の場を回り、2023年 1月21日 24年は「定計の景を 2223年 1月21日 2223年 1月19日 2223年 1月19 | 2023年12月14日 | 本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2023年11月分) |
| 2023年12月12日 12月日銀会会の行方へ政治的規則、2000年との比較へ | | |
| 2023年12月1日 24 年ドル/円見通し外観〜「主戦場の変化」を確認する年〜 2023年12月7日 ECB、シュナーベル発音の読み方〜ドレンジングの意念〜 2023年12月8日 武族 (口条と植田秀堂の読み方〜北大候駅を警戒〜 2023年12月8日 2023年12日 2023年12日 2023年12日 日本版 (貿易赤学国が迎える米利下げ〜通貨高は当たり前ではない〜) 2023年11月24日 2023年12日 日本版 (貿易赤学国が迎える米利下げ〜通貨高は当たり前ではない〜) 2023年11月29日 2023年12日 日本版 (大邦10月夏新計を受けてへ地が返るでは、10月分) 2023年12月1日 日本財産人投資家の対外資金フロー動向(2023年10月分) 1年が20月日の日本財産人投資家の対外資金フロー動向(2023年10月分) 1年が20月日の日本財産人投資家の対外資金フロー動向(2023年10月分) 1年が20月日の日本財産人投資家の対外資金フロー動向(2023年10月分) 2023年11月18日 24年に「東かの円売り」元年になるか〜外貨資産の現状〜 2023年11月19日 24年に「東かの円売り」元年になるか〜外貨資産の現状〜 2023年11月19日 24年に「東かの円売り」元年になるか〜外貨資産の現状〜 2023年11月1日 24年に「東かの円売り」元年になるか〜外貨資産の現状〜 2023年11月1日 24年に「東かの円売り」元年になるか〜外貨資産の現状〜 2023年11月1日 24年に「東かの円売り」元年になるか〜外貨資産の現状へ 2023年11月1日 24年に「東かの円売り」元年になるか〜外貨資産の現状へ 2023年11月1日 24年に「東かの円売り」元年になるか〜外貨資産の現状を 2023年11月1日 24年に「東かの野売り」元年になるか〜外貨資産の現状を 2023年11月1日 24年に「東かの野売り」元年になるか〜外貨資産の現状 2023年11月1日 24年に「東かの野売り」元年になるか〜外貨資産の現状 2023年11月1日 24年に「東かの野売り」元年になるか〜外貨資産の日本財産・2023年11月1日 24年に「東かの野売り」一日の日の日の日の日の日の日の日の日の日の日の日の日の日の日の日の日の日の日の | | |
| 2023年12月8日 週末版 (円高上組田発言の読み方〜平ヤレンシングの真意〜) 2023年12月8日 対内直接投資の胎動と今後への展望 2023年12月8日 対内直接投資の胎動と今後への展望 2023年12月8日 24年、円高シナリオの錯度・130円割れはあれど〜 2023年12月1日 温末版 (ユー西語・月油資者物画指数の読み方〜3 農後の増上なるサービス果〜) ユーロ圏経済とCGD金融放策の現状と展望 2023年11月21日 2023年11月11日 | | |
| 2023年12月1日 | | |
| 2023年12月6日 2023年12月日 2023年12月1日 2023年12月1日 2023年12月1日 2023年12月1日 2023年12月2日 2023年2月2日 | | |
| 2023年12月4日 2023年12月1日 2023年12月1日 2023年12月1日 2023年11月28日 ユーロ圏経済とECB金融政策の現状と展望 ユーロ圏経済とECB金融政策の現状と展望 2023年11月24日 選末版(1983年7日が迎える米利下1ゲー通貨高は当かり前ではない~) 2023年11月21日 高とPPPの考え方へ収取がまるかり、しないのか~ 2023年11月20日 過去最安値に肉薄する円の名目来効相場(NEER) 2023年11月17日 ス版に本邦10月3日 スポル (本邦)のよいで、繰り返される23年と同じ言説~) 2023年11月17日 スポル (本邦)のよい (本科)のよい (| | |
| 2023年11月28日 週末版(ユーロ圏11月消費者物価指数の誘み方~ 最後の碧」となるサービス業~) | | |
| 2023年11月28日 3大阪(貿易赤平田が迎える米利下げ~通貨高は当たり前ではない~) 2023年11月21日 河高とPPPの考え方~収飲するのか、しないのか~ 2023年11月21日 河高とPPPの考え方~収飲するのか、しないのか~ 2023年11月15日 流表要な値に内薄する円の名目束の相解がEER) 2023年11月15日 本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2023年10月分) | | |
| 2023年11月24日 現末版(貿易赤宇国が迎える米利下げ~通貨高は当たり前ではない~) | | |
| 2023年11月21日 円高とPPPの考え方・収飲するのか、しないのか〜 2023年11月17日 過去最安値に内薄する円の名目実効相場(NEER) 過去版と本部10月貿易統計を受けて一線り返される23年と同じ言説〜) 本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2023年10月分) | | |
| 2023年11月10日 過去最安値に肉薄するFIの名目実効射場(NEER) 2023年11月15日 選末版(本邦10月貿易統計を受けて一繰り返される23年と同じ書説~) 2023年11月15日 本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2023年10月分) 1年ぶり2度目のCPIションクをどう評価すべきか 2023年11月18日 24年は「家計の用売り」元年になるか~外貨資産の現状~ 2023年11月19日 週末版(23年度上期経常収支の読み方~CFベースの黒字は10分の1に~) 2023年11月19日 週末版(23年度上期経常収支の読み方~CFベースの黒字は10分の1に~) 2023年11月9日 週末版 2023年10月30日 100日合定着を受けて~その背景と今後の論点整理~ 2023年10月30日 100日合定着を受けて~その背景と今後の論点整理~ 2023年10月28日 週末版(26日次年度上期全を終えて~再投資停止を阻むイタリア国債利回りの上昇~) 2023年10月28日 世に日ンレニューへ利上げ代替としてのMRR引き上げ~ 2023年10月28日 カービス収支に透ける製造業の行動変化 2023年10月19日 本邦の月貿易統計~起きるべくして起きた23年の円安~ 2023年10月19日 本邦の月貿易統計~起きるべくして起きた23年の円安~ 2023年10月18日 再び直面する天然ガスリスク~ユーロ支着家~ 2023年10月18日 再び直面する天然ガスリスク~ユーロ支着家~ 2023年10月18日 本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2023年9月分) 2023年10月18日 本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2023年9月分) 2023年10月1日日 カキ関連収支でも拡がるサービス赤字 2023年10月1日 カキ関連収支でも拡がるサービス赤字 2023年10月1日 カキが拡がるデジタル関連はたりか年間との1月1日 カキが拡がるデジタル関連はたりか年間と 2023年10月1日 日東ンナリオを延命させる中東リスク 2023年10月1日 様・インフレを輸入する日本~「人手不足」の波~ 2023年10月3日 一一回のインフル情勢と任8の「次の一手」について 2023年9月28日 日安全地改策決定会合~マイナス金利解除の行方~ 2023年9月28日 日安全助政策決定会合~マイナス金利解除の行方~ 2023年9月28日 日安全政策決定会合~マイナス金利解除の行方~ 2023年9月21日 FOMCを終えて~「2024年で利下げの年」という危うさ~ 2023年9月21日 でMCを終えて~「2024年で利下げの年」という危うさ~ 2023年9月21日 でMCを終えて~「2024年で利下げの年」という危うさ~ 2023年9月21日 でMCを終えて~「2024年で利下げの年」という危うさ~ 2023年9月21日 でMCを終えて~「2024年で利下げの年」という合き | | |
| 2023年11月17日 週末版(年邦10月貿易統計を受けて一続り返される23年と同じ言説~) | | |
| 2023年11月15日 本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2023年10月分) | | |
| 1年ぶり2度目のCPIショックをどう評価すべきか 2023年11月18日 | | |
| 2023年11月14日 | | |
| 2023年11月13日 24年は「家計の円売り」元年になるか〜外資資産の現状〜 2023年11月9日 週末版 (23年度上期経常収支の読み方〜CFペースの黒字は10分の1に〜) 2023年11月9日 週末版 2023年11月2日 週末版 2023年10月2日 週末版 2023年10月27日 週末版 (CEO政策理事会を終えて〜再投資停止を阻むイタリア国債利回りの上昇〜) 2023年10月26日 ECBプレビュー〜利上げ代替としてのMRR引き上げ〜 2023年10月28日 サービス収支に透ける製造業の行動変化 2023年10月28日 サービス収支に透ける製造業の行動変化 2023年10月18日 再び直面する天然ガスリスク〜ユーロ安考察〜 2023年10月18日 再び直面する天然ガスリスク〜ユーロ安考察〜 2023年10月18日 再び直面する天然ガスリスク〜ユーロ安考察〜 2023年10月18日 再び直面する天然ガスリスク〜ユーロ安考察〜 2023年10月18日 再が直和するシアルトリンので、「弱い円」が原因としてもい・〜) 2023年10月19日 カネ関連収支でも拡がるサービス赤字 2023年10月19日 カネ関連収支でも拡がるサービス赤字 2023年10月10日 円安シナリオを延命させる中東リスク 2023年10月16日 円安シナリオを延命させる中東リスク 2023年10月6日 週末版 2023年10月6日 週末版 2023年10月6日 週末版 2023年10月5日 近れ方る日本〜「人手不足」の波〜 2023年10月3日 ユーロ圏のインフレ情勢とECBの「次の一手」について 2023年10月3日 ユーロ圏のインフレ情勢とECBの「次の一手」について 2023年10月2日 週末版 2023年10月2日 週末版 2023年10月2日 週末版 2023年10月2日 週末版 2023年9月29日 週末版 2023年9月26日 日銀金融政策決定会合〜マイナス金利解除の行方〜 2023年9月26日 日銀金融政策決定会合〜マイナス金利解除の行方〜 2023年9月26日 2324~6月期資金循環統計〜「貯蓄から投資」の胎動〜 1023年9月20日 2324~6月期資金循環統計〜「貯蓄から投資」の胎動〜 1023年9月20日 2324~6月期資金循環統計〜「貯蓄から投資」の胎動〜 1023年9月20日 2324年~6月期資金循環統計〜「貯蓄から投資」の胎動〜 1023年9月20日 2324年~6月期資金循環統計〜「貯蓄から投資」の胎動へ 1023年9月20日 2324年~6月期資金循環統計〜「貯蓄から投資」の胎動へ 1023年9月20日 2324年~6月期資金循環統計〜「貯蓄から投資」の胎動へ 1023年9月20日 2324年~6月期資金循環統計〜「貯蓄から投資」の胎動へ 1023年9月20日 2324年~6月期資金循環統計〜「貯蓄から投資」の胎動へ 1023年9月20日 2324年~6月1日 1024年~6月1日 | 2023年11月14日 | |
| 2023年11月10日 週末版(23年度上期経常収支の読み方~CFベースの黒字は10分の1に~) 2023年11月2日 図末版 2023年11月2日 図末版 2023年10月30日 150円台定着を受けて~その背景と今後の論点整理~ 2023年10月27日 週末版(ECB政策理事会を終えて~再投資停止を阻むイタリア国債利回りの上昇~) 2023年10月28日 ECBプレビュー~利上げ代替としてのMRR引き上げ~ 2023年10月28日 サービス収支に透ける製造業の行動変化 2023年10月29日 週末版 2023年10月19日 本邦9月貿易統計~起きるべくして起きた23年の円安~ 2023年10月19日 本邦9月貿易統計~起きるべくして起きた23年の円安~ 2023年10月18日 再び直面する天然ガスリスク~ユーロ安考察~ 2023年10月18日 本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2023年9月分) 2023年10月18日 本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2023年9月分) 2023年10月18日 本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2023年9月分) 2023年10月1日 赤宇が拡がるデジタル関連およびカネ関連の国際取引 2023年10月1日 赤宇が拡がるデジタル関連およびカネ関連の国際取引 2023年10月1日 海末版 2023年10月5日 運末版 2023年10月6日 週末版 2023年10月6日 週末版 2023年10月3日 ユーロ圏のインフレ情勢とECBの「次の一手」について 2023年10月2日 インフレを輸入する日本~「人手不足」の波~ 2023年10月2日 インフレを輸入する日本~「人手不足」の第~ 2023年9月29日 週末版 2023年9月29日 週末版 2023年9月29日 週末版 2023年9月21日 日銀金融政策決定会合~マイナス金利解除の行方~ 2023年9月21日 日銀金融政策決定会合~マイナス金利解除の行方~ 2023年9月21日 2023年9月21日 2023年9月21日 FOMCを終えて~「2024年こそ利下「の年」という危うさ~ 2023年9月20日 23年4~6月期資金循環統計~「貯蓄から投資」の胎動~ 1023年9月21日 1024年06月期資金循環統計~「貯蓄から投資」の胎動~ 2023年9月21日 1024年06月期資金循環統計~「貯蓄から投資」の胎動~ 1023年9月21日 1024年06月期資金循環統計~「貯蓄から投資」の胎動~ 1023年9月19日 1024年06月期資金循環統計~「貯蓄から投資」の胎動~ 1023年9月19日 1024年06月期資金循環統計~「貯蓄から投資」の胎動~ 1023年9月19日 1023年9月19日 1023年9月19日 1024年06月期資金循環統計~「貯蓄から投資」の胎動~ 1023年9月19日 1023年9月19日 1023年9月19日 1023年9月20日 2023年9月20日 2023年9月20 | 2023年11月13日 | |
| 2023年10月30日 150円台定着を受けて~その背景と今後の論点整理~ 2023年10月27日 週末版(ECB政策理事会を終えて~再投資停止を阻むイタリア国債利回りの上昇~) 2023年10月26日 ECBプレビュー~利上げ代替としてのMRR引き上げ~ 2023年10月28日 サービス収支に透ける製造業の行動変化 2023年10月20日 週末版 2023年10月19日 本邦9月貿易統計~起きるべくして起きた23年の円安~ 2023年10月18日 再び直面する天然ガスリスク~ユーロ安考察~ 2023年10月18日 再び直面する天然ガスリスク~ユーロ安考察~ 2023年10月18日 再び直面する天然ガスリスク~ユーロ安考察~ 2023年10月18日 本邦9月貿易統計~起きるべくして起きた23年の円安~ 2023年10月18日 国末版(国金の戸空域正つりて~「弱い円」が原因としても・・・~) 2023年10月19日 カネ関連収支でも拡がるサービス赤字 2023年10月19日 カネ関連収支でも拡がるサービス赤字 2023年10月10日 円安シナリオを延命させる中東リスク 2023年10月10日 円安シナリオを延命させる中東リスク 2023年10月6日 国末版 2023年10月4日 ゼンフレを輸入する日本~「人手不足」の波~ 2023年10月3日 ユーロ圏のインフレ情勢とECBの「次の一手」について 2023年10月2日 インフレを輸入する日本~インフレ持続性の考え方~ 2023年9月29日 週末版 2023年9月28日 日接金融政策決定会合~マイナス金利解除の行方~ 2023年9月28日 日ま版 2023年9月28日 日ま版 2023年9月28日 2024年0月19日 2024年0月19日 2024年0月19日 2024年0月19日 2024年0月19日 2024年0月19日 2024年0月19日 2024年0月19日 2024年0月19日 100年3月20日 2024年0月19日 100年3月20日 2024年0月19日 2024年0月19日 100年3月20日 2024年9月21日 100年3月20日 100年3月20日 2024年0月19日 100年3月20日 100年3月 | | |
| 2023年10月30日 150円台定着を受けて〜その背景と今後の論点整理〜 2023年10月27日 週末版(ECB政策理事会を終えて〜再投資停止を阻むイタリア国債利回りの上昇〜) 2023年10月23日 世ービス収支に透ける製造業の行動変化 2023年10月23日 世ービス収支に透ける製造業の行動変化 2023年10月19日 本邦9月貿易統計〜起きるべくして起きた23年の円安〜 2023年10月19日 本邦9月貿易統計〜起きるべくして起きた23年の円安〜 2023年10月18日 再び直面する天然ガスリスク〜ユーロ安考察〜 2023年10月18日 再び直面する天然ガスリスク〜ユーロ安考察〜 2023年10月18日 週末版(日独GDP逆転について〜「弱い円」が原因としても・・・〜) 2023年10月11日 カ木閉通収支でも拡がるサービス赤字 2023年10月11日 赤字が拡がるデジタル関連およびカネ関連の国際取引 2023年10月11日 赤字が拡がるデジタル関連およびカネ関連の国際取引 2023年10月6日 回来版 2023年10月6日 「底打ち懸念」も漂う米経済〜米金利上昇の考え方〜 2023年10月3日 「底打ち懸念」も漂う米経済〜米金利上昇の考え方〜 2023年10月3日 ボインフレを輸入する日本〜「人手不足」の波〜 2023年10月3日 オーロ圏のインフレ情勢とEGBの「次の一手」について 2023年10月2日 インフレを輸入する日本〜インフレ持続性の考え方〜 2023年9月28日 円安シナリオを長続きさせる貿易赤字 2023年9月28日 日銀金融政策決定会合〜マイス金利解除の行方〜 2023年9月25日 週末版 2023年9月26日 日銀金融政策決定会合〜マイス金利解除の行方〜 2023年9月27日 2023年9月27日 2023年9月27日 2023年9月27日 2023年9月27日 2023年9月27日 2023年9月27日 2023年9月27日 2023年9月27日 「欧州の病人」は戻って来たのか? | | |
| 2023年10月27日 | | |
| 2023年10月26日 ECBプレビュー〜利上げ代替としてのMRR引き上げ〜 2023年10月23日 | | |
| 2023年10月23日 | | |
| 2023年10月20日 週末版 2023年10月18日 | | |
| 2023年10月19日 本邦9月貿易統計~起きるべくして起きた23年の円安~ 2023年10月18日 再び直面する天然ガスリスク〜ユーロ安考察〜 2023年10月18日 再び直面する天然ガスリスク〜ユーロ安考察〜 2023年10月18日 週末版 2023年10月19日 カネ関連収支でも拡がるサービス赤字 2023年10月19日 カネ関連収支でも拡がるサービス赤字 2023年10月11日 赤字が拡がるデジタル関連およびカネ関連の国際取引 2023年10月10日 円安シナリオを延命させる中東リスク 2023年10月6日 週末版 2023年10月6日 週末版 2023年10月3日 「底打ち懸念」も漂う米経済〜米金利上昇の考え方〜 2023年10月3日 ユーロ圏のインフレを輸入する日本〜「人手不足」の波〜 2023年10月3日 ユーロ圏のインフレ情勢とECBの「次の一手」について 2023年10月2日 ユーレビ・カンフレを輸入する日本〜インフレ持続性の考え方〜 2023年9月29日 週末版 2023年9月26日 円安シナリオを長続きさせる貿易赤字 2023年9月26日 円安シナリオを長続きさせる貿易赤字 2023年9月27日 週末版 2023年9月27日 1023年9月27日 1023年9月2 | | |
| 2023年10月18日 再び直面する天然ガスリスク〜ユーロ安考察〜 2023年10月16日 本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2023年9月分) 2023年10月13日 週末版(日独GDP逆転について〜「弱い円」が原因としても・・・〜) 2023年10月12日 カネ関連収支でも拡がるサービス赤字 2023年10月11日 赤字が拡がるデジタル関連およびカネ関連の国際取引 2023年10月10日 円安シナリオを延命させる中東リスク 2023年10月6日 週末版 2023年10月6日 週末版 2023年10月7日 続・インフレを輸入する日本〜「人手不足」の波〜 2023年10月8日 赤・ブンレを輸入する日本〜「人手不足」の波〜 2023年10月2日 インフレを輸入する日本〜「人手不足」の波〜 2023年10月2日 インフレを輸入する日本〜インフレ持続性の考え方〜 2023年9月29日 週末版 2023年9月29日 四安シナリオを長続きさせる貿易赤字 2023年9月26日 円安シナリオを長続きさせる貿易赤字 2023年9月27日 日銀金融政策決定会合〜マイナス金利解除の行方〜 2023年9月27日 50Mの病人」は戻って来たのか? | | |
| 2023年10月16日 本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2023年9月分) 2023年10月13日 週末版(日独GDP逆転について~「弱い円」が原因としても・・・~) 2023年10月12日 カネ関連収支でも拡がるサービス赤字 2023年10月11日 赤字が拡がるデジタル関連およびカネ関連の国際取引 2023年10月10日 | | |
| 2023年10月13日 週末版(日独GDP逆転について~「弱い円」が原因としても・・・~) | | |
| 2023年10月12日 カネ関連収支でも拡がるサービス赤字 2023年10月11日 赤字が拡がるデジタル関連およびカネ関連の国際取引 2023年10月6日 周末版 2023年10月6日 週末版 2023年10月8日 『底打ち懸念」も漂う米経済〜米金利上昇の考え方〜 2023年10月4日 続・インフレを輸入する日本〜「人手不足」の波〜 2023年10月3日 ユーロ圏のインフレ情勢とECBの「次の一手」について 2023年10月2日 インフレを輸入する日本〜インフレ持続性の考え方〜 2023年9月29日 週末版 2023年9月26日 円安シナリオを長続きさせる貿易赤字 2023年9月27日 日銀金融政策決定会合〜マイナス金利解除の行方〜 2023年9月27日 週末版 2023年9月27日 フレを輸入する日本〜マンサス金利解除の行方〜 2023年9月27日 3世末版 2023年9月27日 フレス金利ので表述さるビスのです。 2023年9月27日 フロスを終えて〜「2024年こそ利下げの年」という危うさ〜 2023年9月27日 23年4〜6月期資金循環統計〜「貯蓄から投資」の胎動〜 | | |
| 2023年10月11日 赤字が拡がるデジタル関連およびカネ関連の国際取引 2023年10月10日 円安シナリオを延命させる中東リスク 2023年10月6日 週末版 2023年10月5日 「底打ち懸念」も漂う米経済〜米金利上昇の考え方〜 2023年10月3日 続・インフレを輸入する日本〜「人手不足」の波〜 2023年10月3日 ユーロ圏のインフレ情勢とECBの「次の一手」について 2023年10月2日 インフレを輸入する日本〜インフレ持続性の考え方〜 2023年9月29日 週末版 2023年9月26日 円安シナリオを長続きさせる貿易赤字 2023年9月27日 日銀金融政策決定会合〜マイナス金利解除の行方〜 2023年9月27日 日銀金融政策決定会合〜マイナス金利解除の行方〜 2023年9月27日 「FOMCを終えて〜「2024年こそ利下げの年」という危うさ〜 2023年9月19日 23年4〜6月期資金循環統計〜「貯蓄から投資」の胎動〜 | | |
| 2023年10月10日 円安シナリオを延命させる中東リスク 2023年10月6日 週末版 2023年10月5日 「底打ち懸念」も漂う米経済〜米金利上昇の考え方〜 2023年10月3日 続・インフレを輸入する日本〜「人手不足」の波〜 2023年10月3日 ユーロ圏のインフレ情勢とECBの「次の一手」について 2023年10月2日 インフレを輸入する日本〜インフレ持続性の考え方〜 2023年9月29日 週末版 2023年9月26日 円安シナリオを長続きさせる貿易赤字 2023年9月25日 日銀金融政策決定会合〜マイナス金利解除の行方〜 2023年9月27日 週末版 2023年9月27日 週末版 2023年9月27日 32年4〜6月期資金循環統計〜「貯蓄から投資」の胎動〜 2023年9月19日 「欧州の病人」は戻って来たのか? | | |
| 2023年10月6日 | | |
| 2023年10月5日 | | |
| 2023年10月3日 ユーロ圏のインフレ情勢とECBの「次の一手」について 2023年10月2日 インフレを輸入する日本~インフレ持続性の考え方~ 2023年9月26日 円安シナリオを長続きさせる貿易赤字 2023年9月25日 日銀金融政策決定会合~マイナス金利解除の行方~ 2023年9月27日 | | |
| 2023年10月2日 インフレを輸入する日本~インフレ持続性の考え方~ 2023年9月28日 週末版 2023年9月28日 円安シナリオを長続きさせる貿易赤字 2023年9月28日 日銀金融政策決定会合~マイナス金利解除の行方~ 2023年9月22日 週末版 2023年9月21日 FOMCを終えて~「2024年こそ利下げの年」という危うさ~ 2023年9月20日 3年4~6月期資金循環統計~「貯蓄から投資」の胎動~ 2023年9月19日 「欧州の病人」は戻って来たのか? | | 続・インフレを輸入する日本~「人手不足」の波~ |
| 2023年9月29日 週末版 2023年9月26日 円安シナリオを長続きさせる貿易赤字 2023年9月25日 日銀金融政策決定会合~マイナス金利解除の行方~ 2023年9月22日 週末版 2023年9月21日 FOMCを終えて~「2024年こそ利下げの年」という危うさ~ 2023年9月20日 23年4~6月期資金循環統計~「貯蓄から投資」の胎動~ 2023年9月19日 「欧州の病人」は戻って来たのか? | | |
| 2023年9月26日 円安シナリオを長続きさせる貿易赤字 2023年9月25日 日銀金融政策決定会合~マイナス金利解除の行方~ 2023年9月22日 週末版 2023年9月21日 FOMCを終えて~「2024年こそ利下げの年」という危うさ~ 2023年9月20日 23年4~6月期資金循環統計~「貯蓄から投資」の胎動~ 2023年9月19日 「欧州の病人」は戻って来たのか? | | |
| 2023年9月25日 日銀金融政策決定会合~マイナス金利解除の行方~ 2023年9月22日 週末版 2023年9月21日 FOMCを終えて~「2024年こそ利下げの年」という危うさ~ 2023年9月20日 23年4~6月期資金循環統計~「貯蓄から投資」の胎動~ 2023年9月19日 「欧州の病人」は戻って来たのか? | | |
| 2023年9月22日週末版2023年9月21日FOMCを終えて~「2024年こそ利下げの年」という危うさ~2023年9月20日23年4~6月期資金循環統計~「貯蓄から投資」の胎動~2023年9月19日「欧州の病人」は戻って来たのか? | | |
| 2023年9月21日FOMCを終えて~「2024年こそ利下げの年」という危うさ~2023年9月20日23年4~6月期資金循環統計~「貯蓄から投資」の胎動~2023年9月19日「欧州の病人」は戻って来たのか? | | |
| 2023年9月20日 23年4~6月期資金循環統計~「貯蓄から投資」の胎動~ 2023年9月19日 「欧州の病人」は戻って来たのか? | | |
| 2023年9月19日 「欧州の病人」は戻って来たのか? | | |
| | | |
| | | |
| | 2023年9月15日 | 週へ版\C∪D以来理事本で終えし~! |